

2009年6月25日 現在

日本子ども社会学会 第16回大会 プログラム正誤表

	<誤>	<正>
5 頁右下	本館 2 階	本館 3 階
8 頁	馬居政幸	○ 馬居政幸
17 頁	パネリストの追加	松下一世（佐賀大学）
20 頁	ウイルソン エイミー	○ ウイルソン エイミー
21 頁	グリム童話の需要	グリム童話の受容
25 頁	指定討論者の追加	滝澤真毅（山形短期大学）

日本子ども社会学会

第16回大会 プログラム

2009年7月4-5日

中国学園大学

大会の日程

前 日 7月3日(金)

15:30～16:50	現・各種委員会	本館3階 第1会議室ほか
15:30～16:50	会計監査	本館3階 第2会議室
17:00～19:00	現・理事会	本館3階 第2会議室

第1日 7月4日(土)

9:00	受付	12号館1階 エントランスホール
9:30～12:00	研究発表Ⅰ	12号館2階、4階
12:00～12:40	総会	12号館3階 大講義室 (M-301)
12:40～13:30	昼食	
12:40～13:30	新・理事会	本館3階 第2会議室
13:30～15:30	研究発表Ⅱ	12号館2階、4階
15:40～17:40	ワークショップ	12号館2階、4階
18:30～20:30	懇親会	アークホテル (JR岡山駅南)

第2日 7月5日(日)

9:00	受付	12号館1階 エントランスホール
9:30～12:00	研究発表Ⅲ	12号館2階、4階
12:00～13:20	昼食	
	新・評議会	本館3階 第2会議室
	新・各種委員会	本館3階 第1会議室ほか
13:20～15:20	公開シンポジウム	12号館3階 大講義室 (M-301)
15:30～17:30	ラウンドテーブル	12号館2階、3階、4階

各会場については、6～7ページをご覧ください。

ご案内

1. 会場

中国学園大学 子ども学部（4～7 ページの地図を参照してください）

2. 大会実行委員会連絡先

〒701-0197 岡山市北区庭瀬 83 番地 中国学園大学 子ども学部 中田研究室気付

日本子ども社会学会 第 16 回大会 実行委員会

Tel : 086-293-3313（内線 865）

E-mail : nakada@cjc.ac.jp

Fax : 086-293-2854（子ども学科 総合研究室）

入会および会費納入に関する相談・問い合わせは、
下記の日本子ども社会学会事務局へお願いします。

〒685-0001

神戸市東灘区森北町 6-2-23 甲南女子大学 細辻研究室気付

FAX : 078-413-3007

郵便振込口座 01760-1-85048

学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsocs2/> <http://js-cs.jp/>

3. 受付

7 月 4 日(土)～5 日(日) 中国学園大学 12 号館 1 階エントランスホール

(場所は 5～6 ページ参照)

4. 大会参加費

会員 3,500 円

臨時(当日)会員 3,500 円（※公開シンポジウムのみ参加の場合は無料）

5. 懇親会

日時：7 月 4 日(土)

場所：アークホテル（J R 岡山駅南。中国学園大学より貸切バスあり）

会費：一般 5,500 円 大学院生 3,500 円

6. 研究発表

個人(1 人)発表 20 分・質疑応答 5 分、共同(複数)発表 40 分・質疑応答 10 分とします。発表時間を厳守してください。なお、レジュメを用意される方は、50 部程度ご用意ください。万一不足の場合、大会本部でのコピー等は、いたしかねますのでご了承ください。

7. 発表取消(欠席)

発表を取消(発表者が欠席する)の場合には、大会前日(7月3日)までに、先述の大会実行委員会にお知らせください。なお、発表取消については、学会ニュースにその旨を掲載します。

8. 当日配付資料

当日別途資料を配付される場合は、分科会名・氏名を明記し、各分科会の発表当日に会場係に、ご提出ください。

9. クローク

7月4～5日、12号館1階ラウンジスペースにて、お預かりします。

10. 会員休憩室

7月4～5日、12号館第2学生ホールをお使いください。コーヒーなどの準備があります。

- ・会員休憩室に「抜刷コーナー」を設けていますので、ご利用ください。
- ・会員休憩室を含めキャンパス内は全面禁煙です。喫煙は所定の場所（北門前の職員駐車場に設置予定）で、お願いします。
- ・書籍販売等も会員休憩室で行う予定です。

11. 昼食

7月4-5日、12号館第2学生ホールもしくは、本館1階第1学生ホールをご利用ください。

- ・食堂は両日ともお休みのため、9時から9時半までのあいだ、お弁当の注文を承りますので、ご利用ください。
- ・大学の周辺には、コンビニエンスストアがありません。

12. 宿泊

中国学園大学の徒歩圏内には宿泊施設がありません。最寄りの庭瀬駅まで徒歩15分、そこから岡山駅へは2駅です。岡山駅周辺には「三井ガーデンホテル」「岡山全日空ホテル」「ホテルグランヴィア岡山」「ダイワロイネットホテル岡山駅前」「東横イン岡山駅西口右」「岡山グリーンホテル」「岡山ワシントンホテルプラザ」など、宿泊施設が多数ございますので、そちらをご利用ください。なお、大会実行委員会より斡旋は行っておりませんので、各自でご予約ください。

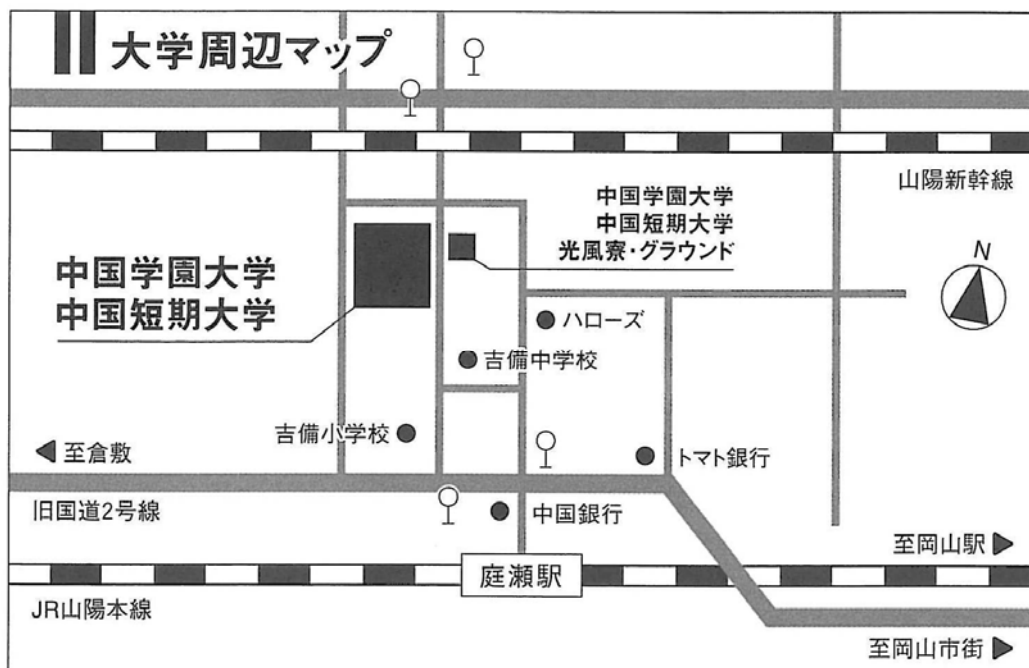
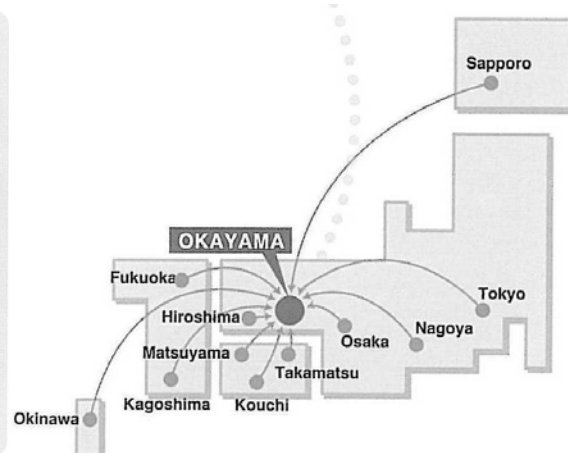
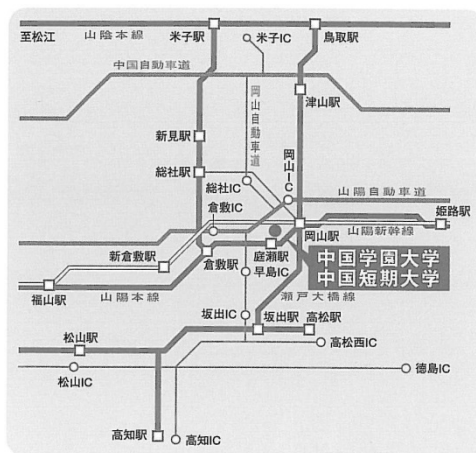
13. アクセス

会場までのアクセスについては、次ページをご覧ください。学会終了後の飛行機の最終便は、東京方面 JAL が 19:10、ANA が 19:35 となっております。大学から岡山空港までは、岡山駅からのシャトルバス（最終 18:20、片道 740 円）をご利用ください。

新幹線(岡山駅発)は、新大阪方面が 22:53、京都・名古屋方面が 21:44、東京方面が 20:33、広島方面が 23:15、福岡方面が 22:16 となっております。

(時刻・料金は 2009 年 5 月現在)

中国学園大学までのアクセス



中国学園大学・中国短期大学まで…「庭瀬」下車、徒歩15分

岡山まで

飛行機で

- 札幌(新千歳)から ……約2時間10分
- 東京(羽田)から ……約1時間20分
- 鹿児島から ……約1時間15分
- 沖縄(那覇)から ……約1時間45分

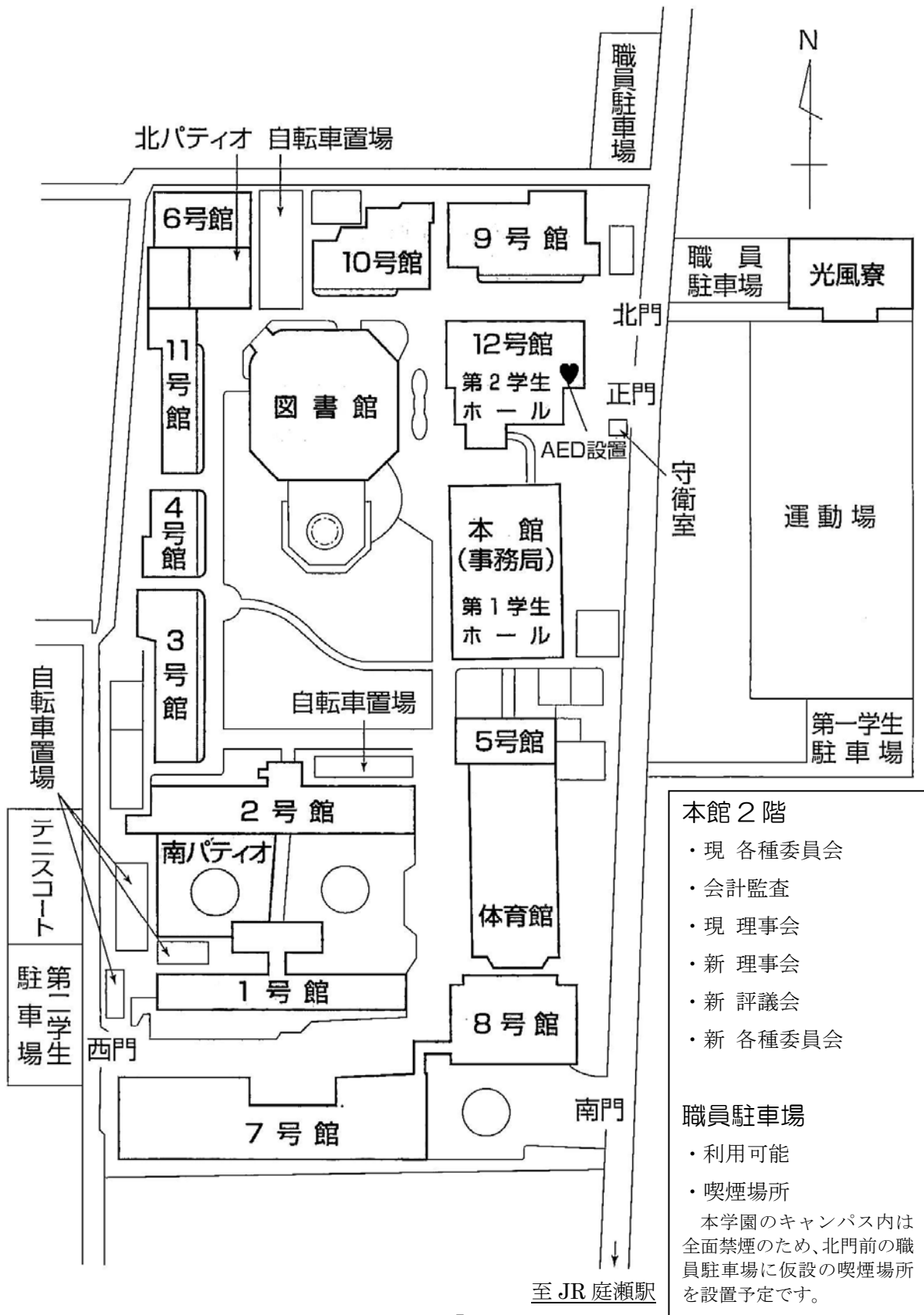
新幹線で

- 東京から ……約3時間19分
- 名古屋から ……約1時間38分
- 大阪から ……約44分
- 広島から ……約40分
- 福岡(博多)から ……約1時間36分

JR 庭瀬駅まで

- 岡山駅から(山陽本線) ……約9分
 - 倉敷駅から(山陽本線) ……約9分
 - 福山駅から(山陽本線) ……約50分
 - 新見駅から(伯備線) ……約1時間15分
 - 米子駅から(伯備線) ……約2時間
 - 坂出駅から(瀬戸大橋線) ……約45分
 - 高松駅から(瀬戸大橋線) ……約1時間10分
 - 高知駅から(土讃線) ……約2時間40分
 - 松山駅から(予讃線) ……約3時間
- 庭瀬駅から徒歩15分

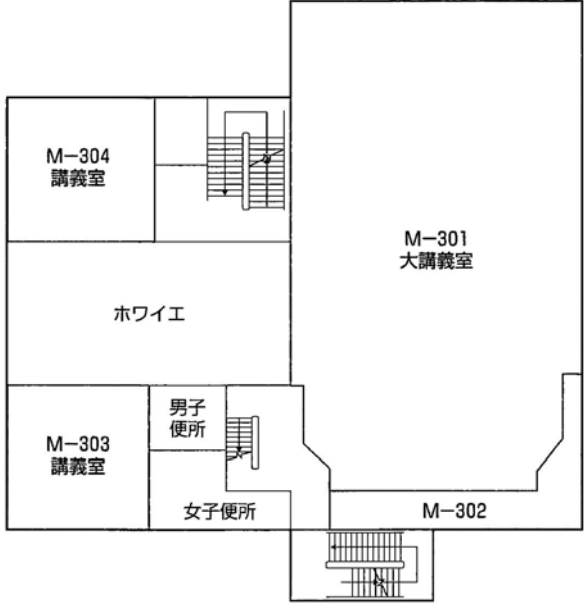
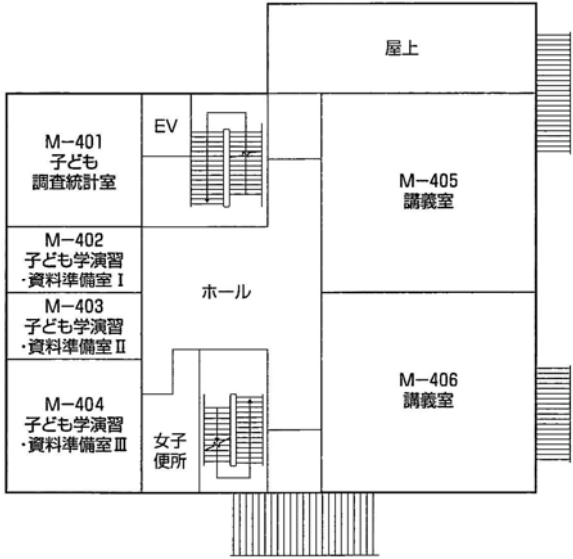
中国学園大学・中国短期大学キャンパス配置図



会場案内 1

12 号館 1 階	
	エントランスホール ・受付 ラウンジ ・クローク 第2学生ホール ・会員休憩室 ・抜刷コーナー ・書籍販売 ・弁当販売
12 号館 2 階	
	M-201 講義室 ・研究発表Ⅰ－1 学校教育 ・研究発表Ⅱ－1 実践報告（1） ・ワークショップⅠ - 子ども社会学の目的－対象－方法を考える －学際性とは何を意味しているのか－ ・研究発表Ⅲ－1 地域の育児文化 ・ラウンドテーブルⅠ - 幼児教育の独自性に即した PDCA サイクルの改変と保育の質の向上 －「幼児理解」→「保育計画」→「保育実践」→「記録と省察」の循環モデル－ M-202 講義室 ・研究発表Ⅰ－4 理論 ・研究発表Ⅱ－4 学童保育 ・ワークショップⅣ - マナーの人間形成論的意味について ・ラウンドテーブルⅡ - 遊び保育の実践と評価をめぐって

会場案内 2

12 号館 3 階	
	M-301 大講義室 ・総会 ・公開シンポジウム M-303 講義室 ・ラウンドテーブルⅢ 学童保育指導員の資格化を問う M-304 講義室 ・ラウンドテーブルⅣ 子ども時代の経験のその後への影響について
12 号館 4 階	
	M-405 講義室 ・研究発表Ⅰ－2 親の養育行動 ・研究発表Ⅱ－2 実践報告(2) ・ワークショップⅡ 学校裏サイトと子どもの人間関係 ・研究発表Ⅲ－2 児童文化と子育て ・ラウンドテーブルⅤ 学力を高める実践的アプローチ －人間関係、集団づくりの視点から－ M-406 講義室 ・研究発表Ⅰ－3 子育て支援 ・研究発表Ⅱ－3 メディアと子ども ・ワークショップⅢ 6大学連携教育支援人材育成事業の可能性 ・研究発表Ⅲ－3 保育と保育者
M-401 子ども調査統計室 ・大会本部 M-404 子ども学演習・資料準備室Ⅲ ・現 紀要編集委員会 ・新 紀要編集委員会	

研究発表 I

2009 年 7 月 4 日（土）9:30～12:00

12 号館 2 階 M-201 教室

I - 1 学校教育

司会 山田 浩之（広島大学）

吉岡 眞知子（東大阪大学）

9:30～9:55 「子ども」から「青年」へ ―大学生調査からの考察―
谷田川 ルミ（上智大学大学院）

9:55～10:20 学校給食活動における文化実践
―小学校中学年に焦点を当てて―
真鍋 眞澄（山村学園短期大学
・非常勤講師）

10:20～10:45 学力問題再考 ―沖縄と秋田の比較を通して―
○ 西本 裕輝（琉球大学）
馬居 政幸（静岡大学）

10:45～11:35 子どもの「仕事」観の形成に関する一考察 その1
―「働く」というテーマの作文に子どもたちは誰を書くのか―
○ 高橋 平徳（早稲田大学大学院）
○ 阿比留 久美（早稲田大学大学院）
深作 拓郎（弘前大学）

11:35～ 総括討論

2009 年 7 月 4 日（土）9:30～12:00

12 号館 4 階 M-405 教室

I - 2 親の養育行動

司会 青井 倫子 （愛媛大学）

田中 理絵 （山口大学）

- 9:30～9:55 父親の子育て参加と子どもの親和性
佐々木 卓代 （お茶の水女子大学大学院）
- 9:55～10:20 乳幼児をもつ母親どうしのつきあい
—「つどいの広場」利用者へのインタビューを中心に—
戸江 哲理 （日本学術振興会）
- 10:20～10:45 乳幼児をもつ母親の「育児ストレス」に関する分析
池田 隆英 （精華女子短期大学）
- 10:45～11:10 乳幼児期の食育に関する一考察
—保育現場における食育の動向と課題—
山形 百合 （聖和大学大学院）
- 11:10～11:35 母親の定位家族体験と育児ネットワーク
中谷 奈津子 （中京女子大学）
- 11:35～ 総括討論

2009年7月4日(土) 9:30～12:00

12号館4階 M-406 教室

I - 3 子育て支援

司会 香曾我部 琢 (中部大学)

平松 芳樹 (中国学園大学)

9:30～9:55 離婚後の養育費支払の実情と支払確保に向けての課題
上村 昌代 (京都女子大学大学院)

9:55～10:20 中国都市部における産育支援について
—上海市の事例から—
翁 文静 (九州大学)

10:20～11:10 育児の外部化に関する意識調査
○ 深谷 野亜 (松蔭大学)
○ 三枝 恵子 (東京成徳大学・非常勤講師)
朴 珠鉉 (東京家政大学大学院)
深谷 昌志 (東京成徳大学)

11:10～11:35 生きる力を育む場としての放課後子ども教室の可能性(2)
○ 結城 孝治 (国学院短期大学)
滝澤 真毅 (山形短期大学)
請川 滋大 (日本女子大学)
高橋 健介 (宝仙学園短期大学)

11:35～ 総括討論

2009 年 7 月 4 日（土）9:30～12:00

12 号館 2 階 M-202 教室

I - 4 理論

司会 上杉 孝實（畿央大学）

樋田 大二郎（青山学院大学）

9:30～9:55 遊び保育論の構築

小川 博久（聖徳大学）

9:55～10:20 子どもは変わったのか ―乳幼児期の研究を概観する―

粕井みずほ（畿央大学）

10:20～11:10 ルソーの子ども観（3）

○ 原田 彰（広島大学名誉教授）

○ 望月 重信（明治学院大学）

11:10～ 総括討論

研究発表Ⅱ

2009 年 7 月 4 日（土）13:30～15:30

12 号館 2 階 M-201 教室

Ⅱ - 1 実践報告（1）

司会 横松 友義（岡山大学）

西田 忠男（島根大学）

13:30～13:55 学校における人形劇活動と地域文化運動
—小中学生のいいだ人形劇フェスタ上演参加を通して—
松崎 行代（飯田女子短期大学）

13:55～14:20 わが国におけるスクールソーシャルワークの固有性
中 典子（中国学園大学）

14:20～14:45 幼稚園における保育参画の意義と課題
○ 小川 敦子（尾道市立重井幼稚園）
青井 倫子（愛媛大学）

14:45～15:10 久留米市小学校外国語活動における小学校教員の
意識調査 —担任主導の活動へ向けて—
松原 留美（久留米市立屏水中学校区
小学校外国語活動担当講師）

15:10～ 総括討論

2009 年 7 月 4 日（土）13:30～15:30

12 号館 4 階 M-405 教室

Ⅱ - 2 実践報告（2）

司会 多賀 太 （関西大学）

矢藤 誠慈郎（愛知東邦大学）

13:30～13:55 子どもと大人の出会い方 ―「紙芝居屋」を事例として―
鈴木 常勝（愛知大学・非常勤講師）

13:55～14:20 暮らしの中で異年令が相互に信頼関係を育む保育づくり
多田 琴子（姫路市立曾左幼稚園）

14:20～14:45 子育て支援の新たな視点 家族と地域の関係性支援を
めざして ―夏休みの親子の活動を通して―
小島 千恵子（椋山女学園大学・非常勤講師）

14:45～15:10 子どもの生活と保育を支える保育者の役割
―先人の保育者論にみる保育者の役割・資質②―
小林 みどり（兵庫教育大学附属幼稚園）

15:10～ 総括討論

2009 年 7 月 4 日（土）13:30～15:30

12 号館 4 階 M-406 教室

Ⅱ - 3 メディアと子ども

司会 近藤 大生 （大阪青山大学）

湯地 宏樹 （比治山大学）

13:30～13:55 情報メディア社会における子どもの社会化をどう問うか
小林 至道 （青山学院大学大学院）

13:55～14:20 幼児教育におけるメディアの可能性
木内 菜保子 （中国学園大学）

14:20～14:45 保育者養成のための教材としての「動く絵本」の役割
芝野 治郎 （中国学園大学）

14:45～ 総括討論

2009 年 7 月 4 日（土）13:30～15:30

12 号館 2 階 M-202 教室

Ⅱ - 4 学童保育

司会 松田 恵示 （東京学芸大学）

南本 長穂 （関西学院大学）

13:30～13:55 民設民営学童保育の新しい展開

春山 勝 （東洋大学大学院）

13:55～14:20 学童保育実践にみる障害のある子どもたちの現状

三好 正彦 （京都大学大学院）

14:20～14:45 学童保育指導員の専門性としてのケア・福祉・教育の
機能の統合性

中山 芳一 （中国学園大学・研究員）

14:45～ 総括討論

ワークショップ

2009 年 7 月 4 日（土）15:40～17:40

12 号館 2 階 M-201 教室

ワークショップⅠ：子ども社会学の目的－対象－方法を考える －学際性とは何を意味しているのか？－

司 会	望月 重信（明治学院大学）
パネリスト	山田 富秋（松山大学）
	大倉 健太郎（立教女学院短期大学）
	麻生 武（奈良女子大学）
コーディネーター	望月 重信（明治学院大学）
	持田 良和（龍谷大学）

内容：

児童学から子ども学へという潮流のなかで子ども学と子ども社会学の専門性（理論化作業）と実践性について広く議論し、子ども社会学の会員の皆さんと問題意識を共有したいと思う。いままでテーマセッション、ラウンドテーブル、研究発表等でこのテーマに関連する発表がありました。第 15 回大会（松山大学）のラウンドテーブルⅠでは「子ども学再考」として提起され、そこでは子ども学を志向しながら「教育社会的な視点」が論究されました。

学会は今年度で 15 周年を迎える。子ども社会研究第 15 号は与件テーマと関連深いと思われる。子ども社会学研究においてその「学的機構」の地平を考える上で一体「機構要素」として何が考えられるでしょうか？

その際「学際性」「統合性」はキーワードですが子ども社会学の対象は「子ども社会」であり「子ども」です。では「子ども社会」とは？「子ども」とは？その概念定義は多義であり、曖昧模糊の印象は免れない。この場合、＜目的＞と＜方法＞は重要となります。つまり、＜何のための子ども社会学研究＞か、「目的」のためにいかなる方法が有効か？ここに「学際性」の意義が焦点となります。

やや硬い話になろうかと思いますが、会員の皆さんの「知の生産点」において、つまり、「理論」と「実践」との関連（構造）において話し合いをしたいと考えています。それもポレミークな雰囲気の中です。

ウェーバーの「客観性」「価値自由」の原則は「子ども研究」ではどう考えたらいいか？「ザイン」「ゾレン」の問題等すこし「研究者の『本音』の領域」を出し合って「子ども研究のアポリア」がクローズアップされればいいと思います。

会場では「論争への招待」を導きたいと考えています。

2009 年 7 月 4 日（土）15:40～17:40

12 号館 4 階 M-405 教室

ワークショップⅡ：学校裏サイトと子どもの人間関係

司 会
パネリスト

山縣 文治（大阪市立大学）
井上 信次（川崎医療福祉大学）
小針 誠（同志社女子大学）
田川 隆博（名古屋文理大学）
中田 周作（中国学園大学）

内容：

インターネットアクセス等に関する法規制もあって、センセーショナルな事件や報道はやや沈静化傾向にあるが、学校裏サイトの問題は、子どものいじめにつながるということもあって、引き続き学校現場では大きな課題の一つとなっている。

日本子ども社会では、2007 年度、学会による共同研究として「学校裏サイト」を取り上げ、2つの研究チームを発足させた。本ワークショップは、このうち質的側面に関する研究チームの研究成果をもとに、会員諸氏と学校裏サイトと子どもの人間関係の問題について議論することを目的として実施するものである。

なお、研究の成果は、学会のホームページに掲載してあるので、参加される方は、事前に目を通していただけると幸いである。

2009 年 7 月 4 日（土）15:40～17:40

12 号館 4 階 M-406 教室

ワークショップⅢ：6 大学連携 教育支援人材育成事業の可能性

司 会	深谷 昌志（東京成徳大学）
登 壇 者	村川 雅弘（鳴門教育大学）
	深谷 昌志（東京成徳大学）
	宮坂 雄悟（東京学芸大学大学院）
	吉岡 一志（中国学園大学・研究員）

内容：

東京学芸大学、奈良教育大学、鳴門教育大学、東京成徳大学、白梅学園大学、中国学園大学の 6 つの大学、ならびに東京都教育庁、岡山県教育庁、(株)おもちゃ王国が連携し、学校支援ボランティアや放課後子どもプラン指導者など、地域で子どもたちの教育に参加する「教育支援人材」の育成・運用の仕組みを実践的に研究開発する取組が、現在進んでいる。

周知のように、昨今、社会全体で教育を支えていくことの重要性が声高に唱えられている。実際に多くの地域住民が学校の中へボランティア等として参画しており、学校外でも、放課後子ども教室、学童保育など多様な場で、地域住民の主体的な活動が地域の教育力として試されている。しかし、このような人々は、教員とは異なり、必ずしも専門的なトレーニングを受けているわけではない。このことが、子どもたちの育つ環境のあり方に、影響を与えていることも事実である。しかし、それは決してネガティブな側面を指摘するものではない。逆にポジティブな側面をも併せ持っている。地域住民からの視点が放課後の子どもの活動や学校の中に入ってくることが、多くの可能性を持っていることはこれまでもよく指摘される場所である。果たして、ここにはどのような子ども社会の事実や、それを支える大人の存在、さらには制度の実態や歪み、そして、今後の可能性が存在するのであろうか。

本ワークショップでは、先の「教育支援人材」の育成・活用という新しい取組を通して見えてくる、「子ども社会」と地域の実際について、いくつかの視点から議論を深めることをねらいにするものである。学校、家庭、地域の中で育つ子どもにとって、大人のあり方、が、どのような意味を持ちえるのかについて、現代的な文脈の中で多くのみなさんと考えてみたい。

2009 年 7 月 4 日（土）15:40～17:40

12 号館 4 階 M-202 教室

ワークショップⅣ：マナーの人間形成論的意味について

司 会	加野 芳正（香川大学）
発 表 者	加野 芳正（香川大学）
	村上 光朗（鹿児島国際大学）
	松田 恵示（東京学芸大学）
指定討論者	伴 恒信（鳴門教育大学）

内容：

「マナーにもマナーを」という消費者金融のコマーシャルがある。しかし、お金を借りたら返すのが当たり前で、これはマナーの問題ではなく、ルールの問題であろう。マナーとは、どうしても守らなくてはならない義務ではない。しかし、だからといって社会生活をおくる上で、決して不必要なものではない。私たちの生活は、ルールによって守られていると同時に、マナーによっても支えられているからだ。また、マナーは、人間の「品格」を感じさせてくれるものでもある。ベストセラーとなった板東眞理子『親の品格』や『女性の品格』はマナーを守ることによって、人間形成へと結びつき、品格へと結びつくというストーリーで描かれている。

社会学者のエリアスは、文明化とはマナーが人々の間あいに浸透してゆく過程であると論じている。マナーは人間が動物的な次元に近づかないように発達させた身体技法でもある。このワークショップでは、そもそも「マナー」とは何かを、「ルール」や「道徳」との対比で検討していくとともに、マナーを研究の対象とすることで「子ども社会」のどんな側面が明らかになるのか、実際に子どもたちはマナーをどのように理解し行動しているのか、これらのことを考え、討議していきたいと考えている。

研究発表Ⅲ

2009 年 7 月 5 日（日）9:30～12:00

12 号館 2 階 M-201 教室

Ⅲ - 1 地域の育児文化

司会 岡崎 友典（放送大学）

田中 亨胤（姫路獨協大学）

9:30～9:55 近代沖縄における風俗改良運動と学事奨励に関する
一考察

嘉納 英明（名桜大学）

9:55～10:20 子どもが「居る」ことへの地域のおとなの関わり
児玉 弥生（九州市立大学）

10:20～10:45 子どもへの地域芸能の伝承と地域づくり
春日 清孝（明治学院大学・非常勤講師）

10:45～11:35 子どもの発達資産の日米比較
ウイルソン エイミー（明治学院大学
・非常勤講師）
岩野 雅子（山口県立大学）
○ 相原 次男（山口県立大学）

11:35～ 総括討論

2009 年 7 月 5 日（日）9:30～12:00

12 号館 4 階 M-405 教室

Ⅲ - 2 児童文化と子育て

司会 川勝 泰介（京都女子大学）
川北 典子（平安女学院大学）

- 9:30～9:55 学校図書館における読書ボランティアの現状
濱崎 由紀（京都女子大学大学院）
- 9:55～10:20 戦時下における紙芝居の議論
—雑誌『紙芝居』を中心に—
鬘 久美子（名古屋柳城短期大学）
○ 野崎 真琴（名古屋柳城短期大学）
- 10:20～10:45 子どもの民俗行事と地域の活性
—柳川の雛祭りにおける女性のちりめん細工の事例—
坂元 一光（九州大学）
- 10:45～11:10 グリム童話の需要 —ドイツ調査から—
須田 康之（北海道教育大学）
- 11:10～ 総括討論

2009 年 7 月 5 日（日） 9:30～12:00

12 号館 4 階 M-406 教室

Ⅲ - 3 保育と保育者

司会 中坪 史典 （広島大学）

深田 昭三 （愛媛大学）

9:30～9:55 幼児期におけるソーシャルスキルの発達要因に
関する研究

田中 理絵（山口大学）

9:55～10:20 幼児教育希望者の職業意識

中村 三緒子（日本女子大学・学術研究員）

10:20～10:45 保育実習における自己効力感と実習園との合致感の
関係についての一考察

小藺江 幸子（淑徳短期大学）

10:45～11:10 保育者の資質向上につながる転機の変因

—保育者のライフヒストリーから保育者の専門性を探る—

奥山 優佳（東北生活文化大学）

11:10～ 総括討論

公開シンポジウム

2009 年 7 月 5 日（日）13:20～15:20

12 号館 3 階 M-301 教室

テーマ

子ども学と子ども学部への期待

近年子ども学部という名称の学部が全国的に生まれている。四年制大学で 37 学科、短期大学で 32 学科が平成 20 年度に見られる。伝統的な子どもに関わる学部学科である教育学部、初等教育学部、幼児教育学部、保育学科との差異は何にあるのか。単なるそれらの言い換えではない子ども学部の特質は何か。子ども学部の教員養成は教育学部や保育学科の教員養成とどこが異なるのか。子ども学部にはこのような疑問が寄せられている。子ども学部の目的と特色、人材養成の独自性を地域や学校、保育園に対して明らかにすることが本公開シンポジウムの第 1 の目的である。

第 2 の目的は、子ども学の確立に関する子ども学部の役割や研究方法を明らかにすることである。子ども学は子ども学部のバックボーンとなる学問体系である。子ども学の体系や独自性の確立に向けての議論の中で子ども学部の役割と取り組むべき研究課題について考究したい。そのために以下の登壇者を予定している。

1. ミニ講演：深谷昌志（東京成徳大学）
子ども学部とは何か：子ども学研究者としての子ども学と子ども学部への期待
2. 生涯学習課：千葉照久（岡山県生涯学習課）
保育所・幼稚園・NPOからの子ども学部・子ども学への期待
3. 小学校：大野光二（岡山市立西大寺小学校）
小学校からの子ども学部・子ども学への期待：教育学部とは異なる教員養成
4. 高等学校：末廣聡（岡山県立備前緑陽高等学校）
高校生のキャリア教育や進路指導の立場からの子ども学部・子ども学へ期待
5. 一般企業：高田正規（ベネッセコーポレーション）
一般企業が期待する子ども学部・子ども学

司 会 高旗 正人（中国学園大学）

指定討論者 森 楸 （くらしき作陽大学）

ラウンドテーブル

2009 年 7 月 5 日（日）15:30～17:30

12 号館 2 階 M-201 教室

ラウンドテーブルⅠ：幼児教育の独自性に即した PDCA サイクルの 改変と保育の質の向上

－「幼児理解」→「保育計画」→「保育実践」→「記録と省察」の循環モデル－

司 会	上田 敏丈（中国学園大学）
提 案 者	後藤 範子（国際学院埼玉短期大学） 香曾我部 琢（中部大学）
指定討論者	小田 豊 （独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）
コーディネーター	中坪 史典（広島大学大学院）

内容：

今日、製造業や建設業の世界では、生産管理や品質管理の業務を進めるために、「PDCA サイクル（Plan→Do→Check→Action）」と呼ばれる循環モデルが注目されており、これらは小学校以降の校内研修などでも盛んに援用されている。幼児教育の分野においても、こうした循環モデルに基づく保育の質の向上は重要な課題であろう。例えば、保育所保育指針（解説書）では、保育実践改善のための保育の自己評価について、計画、実践、省察、評価、改善、計画という循環を重ねることの重要性が指摘されている。

そこで私たちは、こうした循環モデルを重視しながらも、幼児教育の独自性に即して内容を改変し、それについて提案する。具体的には、(1) 幼児を理解する、(2) 幼児理解に沿って保育を計画（デザイン）する、(3) 計画（デザイン）に沿って保育を実践する、(4) 実践された保育を記録し省察するという 4 つの段階であり、これらが螺旋を描くように一周ごとにサイクルを向上させることで、継続的に保育者の力量や、引いては保育の質を高めることに繋げようとするものである。私たちが提案する循環モデルの特徴は、第一に、「計画」から出発するよりも、むしろ「幼児理解」から出発すること、第二に、(4)「記録と省察」が、次の (1)（新たな）「幼児理解」に結び付くこと、第三に、この意味において、保育者の幼児理解とは、常に暫定的であり、再構成し続けるものであるという立場に立つことである。

2009 年 7 月 5 日（日）15:30～17:30

12 号館 4 階 M-202 教室

ラウンドテーブルⅡ：遊び保育の実践と評価をめぐって

司 会	岩田 遵子（東横学園女子短期大学）
提 案 者	小川 博久（聖徳大学）
指定討論者	高橋 健介（東洋大学）
	請川 滋大（日本女子大学）
コーディネーター	小川 博久（聖徳大学）

内容：

文部省幼稚園教育要領では遊び中心の保育は望ましい保育として原則的に評価されているが、多くの幼稚園では、これに批判的で一斉保育形態をとっているところが多い。そこで、こうした背景は遊び保育の理論が欠落していることにありと見え、この問題をめぐってしっかりと議論する必要があると考えた。

2009 年 7 月 5 日（日）15：30～17：30

12 号館 4 階 M-303 教室

ラウンドテーブルⅢ：学童保育指導員の資格化を問う

司 会	中田 周作（中国学園大学）
提 案 者	中山 芳一（中国学園大学・研究員）
	角田 篤司（岡山県学童保育連絡協議会）
	住野 好久（岡山大学）

内容：

学童保育（放課後児童健全育成事業）は、1998 年の児童福祉法改正を契機に法制化された。学童保育は、児童健全育成としても、少子化対策としても重要性が増しているが、同時に学童保育指導員（以下、指導員）に求められる役割の大きさも増してきている。

しかしながら、指導員の位置は固有なものとして確立していない。例えば、指導員の専門性は経験知に重きが置かれ、学術的な視座を向けられてこなかった。そのため、教諭や保育士等に並ぶ固有な資格としては、制度化されてこなかったのである。

そのような中、岡山県学童保育連絡協議会の呼びかけにより、岡山の地から指導員の資格化への取り組みを発信していることも踏まえて、本ラウンドテーブルでは、以下のような提案を行い、議論が展開されることを期待している。

- （１）元指導員という立場から大学院へ進み、学童保育指導員の専門性研究を行ってきた成果に基づき、学童保育指導員の専門性に関して提案する。（中山）
- （２）保護者、そして地元連絡協議会関係者の立場から、学童保育指導員が専門性を高めることにより、いかに学童保育事業が充実し、ひいては子どもの発達権や親の就労権を保障することが可能なのかを提案する。（角田）
- （３）上記 2 点の提案から、学童保育指導員が専門性の構築及び向上の重要性やさらには資格化の必要性を提案する。（住野）

なお、司会者及び提案者は、今年 5 月に設立総会を終えた「NPO 法人 日本放課後児童指導員協会」の理事を担っていることから、本法人設立の趣旨や経緯、今後の方向性についても報告することで、实际的な資格化の意義を提起したい。

2009 年 7 月 5 日（日）15:30～17:30

12 号館 4 階 M-304 教室

ラウンドテーブルⅣ：子ども時代の経験のその後への影響について

コーディネーター 武内 清 （上智大学）

報告者 森 真理（武庫川女子大学）

栄養学の立場から

内山 絢子（目白大学）

小中学生の生活体験の影響 一般少年と非行少年の比較

浜島 幸司（新潟大学）

高校生活の大学生生活への影響 大学生調査から

内容：

幼児期、子ども期の経験は青少年期に影響し、それらは成人期まで尾を引くことは経験上よくあることである。

子ども時代の経験がその後どのように影響をしているのか、さまざまな実証的事例やデータを出し合い、そのメカニズムを解明し、子どものしつけや教育に役立てる方法を探りたい。

身体的、発達の次元でいえば、子ども期の栄養の摂取あるいはその欠如はその後の成長にどのような影響を及ぼしているのであろうか。朝食を食べずに登校する子ども、好き嫌いが激しく偏食しがちな子どもの発達や日常生活は問題がないのであろうか。

心理学的な次元でいえば、小中学生の時の家庭、学校、友人関係、地域社会での人間関係や生活体験、そして自己意識はその後の規範意識や逸脱への指向性に影響を及ぼしているのであろうか。一般少年と非行少年の比較を通して、その点を実証的に解明することの意義は大きい。

社会学的な次元でいえば、青年期に過ごす学校生活の影響は、その後に及んでいる。それはあたかも、飛行機の滑走→離陸→飛行のように、徐々に学び経験し、後に開花・飛翔するようなものである。高校時代の勉強、読書、交際の経験体験なしには、大学時代の勉学、読書、恋愛はスムーズに進まない。大学デビューは難しいのである。

栄養学、心理学、社会学とさまざまな立場から、実証的なデータを出し合い、子ども時代の経験のその後への影響について議論したい。さまざまな分野の方の参加を得て、学際的な話し合いを展開したい。

（本ラウンドテーブルは、研究交流委員会の企画によるものである）

2009 年 7 月 5 日（日）15:30～17:30

12 号館 4 階 M-405 教室

ラウンドテーブルⅤ：学力を高める実践的アプローチ —人間関係、集団づくりの視点から—

コーディネーター 南本 長穂（関西学院大学）

発 表 者 相原 次男（山口県立大学）

梶田 崇晴（下関市立名池小学校）

西中 明彦（岡山市立岡輝中学校）

内容：

学力向上は今日、学校現場にあっては至上命令となっている。学力向上に向けた努力は学校教育の重要な使命のひとつであり、このこと自体に問題はない。問題とすべきは、学力向上に向けた学習形態や方法、手だて、また、どのような学力の向上を目指すのか、である。

近年、学力向上策のひとつとして到達度別学級編成に基づく授業が多くの学校で採用されている。果たして学力は向上しているのか、学習意欲や人間関係に陰りが見られないのか、など疑問が多い。今、社会が求めている学力とは何か。私たちは、「学び合い、支え合い、認め合い」の学習を通して身につく学力であると考え。そのためには、共同して学べる場づくりや、信頼の人間関係づくりを視野に収めた授業展開が不可欠になる。

本ラウンドテーブルでは、まず、協同学習の基本的考え方とそれに立脚した実践事例を報告し、その後、学習向上の観点から有効な実践的手だてや課題などについて自由に議論できればと願っている。

日本子ども社会学会 第16回大会プログラム

発行 2009年6月

発行者 日本子ども社会学会 第16回大会実行委員会

委員長 高旗 正人 (中国学園大学)

委員 上田 敏丈 (中国学園大学)

小野 文子 (中国学園大学)

木内 菜保子 (中国学園大学)

芝野 治郎 (中国学園大学)

中 典子 (中国学園大学)

中田 周作 (中国学園大学)

中山 芳一 (中国学園大学・研究員)

平松 芳樹 (中国学園大学)

吉岡 一志 (中国学園大学・研究員)

委員氏名は五十音順

大会実行委員会連絡先

〒701-0197 岡山市北区庭瀬 83 番地

中国学園大学 子ども学部 中田研究室気付

日本子ども社会学会 第16回大会 実行委員会

Tel : 086-293-3313 (内線 865)

E-mail : nakada@cjc.ac.jp

Fax : 086-293-2854 (子ども学科 総合研究室)